様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ００５２１

研究課題名（和文）音声データベースに基づくモンゴル系諸言語の史的変化の研究

研究課題名（英文）A study of the history of Mongolic languages on the basis of phonetic database

研究代表者
栗林　均（Kuribayashi, Hitoshi）

東北大学・東北アジア研究センター・名誉教授

研究者番号：３０１５３３８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、モンゴル系諸言語の基本語彙の音声データを蒐集・整理した上で、世界の研究者がそれらを自由に利用できる音声付データベース・システムを構築し、インターネットを通じて公開した。
モンゴル系の諸言語は、モンゴル語をはじめ、ダグル語、東部ユグル語、土族語、保安語、東郷語等であり、それらの基本語彙の音声データは、消滅の危機に瀕した「危機的言語」の記録として資料的な価値をもつ。同時に、それらの基本語彙のリストは「モンゴル文語形」の見出しのもとに再構築したもので、モンゴル系諸言語の歴史を研究する上で重要な資料となる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
モンゴル系諸言語のダグル語、東部ユグル語、土族語、保安語、東郷語等々は、使用人口が少なく、近い将来に消滅の危機が危惧される「危機的言語」であり、それらを記録し保存することは喫緊の課題となっている。本研究ではそれらの言語の基本語彙を音声データによって記録し、インターネットで公開して利用者の便に供した。インターネットにおける音声データの公開に際しては、発音記号、意味（漢語、英語、日本語）、対応するモンゴル文語形を含めたデータベースのシステムを構築し、音声データベースとしてのひとつの型を提示した。

研究成果の概要（英文）：In this research, after collecting and arranging the phonetic data of the basic vocabularies of Mongolic languages, we have developed a database system equipped with phonetic data and released it through the Internet so that researchers around the world can make use of them without any charge.
Mongolic languages include Mongolian, Dagur, Eastern Yogur, Monguor, Baoan, Dungshang, etc., and the phonetic data of their basic vocabulary will become valuable materials as a record of "endangered languages" which most of the Mongolic languages are considered to be. At the same time, the list of these basic vocabulary is arranged under the forms of "Written Mongolian" through the medium of which the forms of Mongolic languages will be related each other and become valuable materials for the study of Mongolic languages from the historical point of view.

研究分野：言語学

キーワード：モンゴル系諸言語　モンゴル語　ダグル語　シラ・ユグル語　保安語　東郷語　音声データベース　基礎語彙

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）モンゴル系諸言語は、モンゴル語と共通の起源をもつ言語で、モンゴル国の他中国、ロシア、アフガニスタン等の地域に散在する少数民族によって使用されている。これらのうち、中国内に分布するモンゴル語、ダグル語、東部ユグル語、土族語、保安語、東郷語等の少数民族の言語は、1950年代の大規模な調査で言語実態が明らかになったものが多く、1980年代の組織的な調査によって、それぞれの言語に関する基本的な語彙や文法情報、口語資料が蒐集・記録され、その成果が整理・出版された。それらの言語は、いずれも話者の数が数万人の規模であり、伝統的な文字をもたず、近い将来に存続が危ぶまれる「危機的言語」とみなされている。

（２）これらの文字をもたない言語の記述や口語の記録は、音声記号を用いて表記され、紙媒体で出版されている。モンゴル系諸言語の研究に限らず、少数民族の言語のように、言語話者と接触することが容易でない状況では、記録された音声記号の資料のみによって研究を進めざるを得ないことが多い。しかし音声記号による表記がいかに精密で信頼のおけるものであっても、音声記号表記だけから元の音声実体を再現することは困難であり、研究者にとって研究対象としている音声実体に接することが出来ないというジレンマが存在する。

（３）言語の学習・習得にとっても、実際の音声に触れることは必須である。近年は、電子辞書等の言語学習アプリで、デジタル化された音声を再生して利用することができるものも少なくない。さらに、世界中のパソコンやスマートフォン、インターネットの普及により、デジタル化された音声を誰もが自由に利用できる環境は整備されているということができる。

本研究は、デジタル化音声とインターネットを利用することによって、少数民族の言語、特に伝統的な文字をもたず言語話者との交流が困難な言語の研究や学習のあり方を根本的に転換させることができるであろうという見通しをもったことを動機として出発した。

２．研究の目的

（１）モンゴル系諸言語はモンゴル語と共通の起源をもつ言語の総称であり、モンゴル語、ダグル語、東部ユグル語、土族語、保安語、東郷語、ブリヤート語、カルムイク語、モゴール語等が含まれる。それらの多くは近い将来に存続が危ぶまれる「危機的言語」とみなされている。

本研究では、特に中国内におけるダグル語、東部ユグル語、土族語、保安語、東郷語、ブリヤート語を研究の対象として、それらの言語の音声データベースを構築することを第１の目的としている。音声データベースとしての概念は、これまで音声記号で表記されていた文字データを、録音した音声データとリンクさせて、発音記号と音声の相互補完的なデータの複合体としてデータベースを構築して、研究期間内にインターネットで公開することをめざす。

（２）言語の調査・研究に際して、音声の分析と研究の結果である音声表記と合わせて、元の音声データを利用することができるようになれば、音声記号の表記に集約されている解釈や分析をより深く、正確に理解できる。場合によっては、そうした解釈や分析を再検討する手掛かりが得られることもあり得る。言語音声の研究や資料と音声データを互いに参照しながら利用できるようにすることは、研究や資料の公開方法、およびそれらの利用方法に新しい可能性を開くものであり、今後の資料提示方法のひとつのあり方を示すものである。本研究では、実用的な音声データベースを構築し公開することによって、新しい資料提示の事例とすることをめざす。

（３）モンゴル系諸言語の音声データベースを構築し、それを利用することによって、モンゴル系諸言語の音声変化の研究を進める。具体的には、それぞれの言語が共通の起源からどのような変化を経て現在の言語状態に至ったか、特に音声面において生じた言語変化の過程を明らかにす

るという観点から、それぞれの言語の個別の音声変化の研究を行う。

３．研究の方法

（１）モンゴル系諸言語の音声データベースの構築

次のような手順によってモンゴル系諸言語の音声データベースを構築する。

①基本語彙リストの作成

モンゴル系諸言語の基本語彙のリストとして、「中国少数民族語言簡誌叢書」中の「保安語」「東郷語」「東部裕固（ユグル）語」「土族語」「達斡爾（ダグル）語」の巻末の附録語彙を利用する。これらの附録語彙は、漢語と民族語との対訳で、約800～1000項目から成り、民族語は発音記号で表記されている。収録されている語彙は、モンゴル語のリストを漢語訳して調査されたことが分かっている。栗林均（1989）は、元のモンゴル語（モンゴル文語）のリストを復元して、それに対応する漢語訳と各言語の音声表記を対照した。

本研究では、これまでの研究成果を踏まえて、これらの諸言語の語彙の音声記号表記と、意味（漢語訳、日本語訳、英語訳）、モンゴル文語の対応形（モンゴル文字、ローマ字転写）をテキスト・データとして入力し、データベースに登録する。

②音声データの蒐集と整理

本研究によって新たに作成した基本語彙リストによって、モンゴル系諸言語の音声データを収録する。それぞれの言語の話者に、基本語彙リストの漢語訳に対応する語句を発音してもらい、録音する。録音した語句の発音データを、「中国少数民族語言簡誌叢書」の附録語彙に収録された発音記号と比較対照しながら、発音記号で表記する。収録した発音データを語句ごとに切り分け、名前を付けてオーディオファイルとして保存する。

音声データに関しては、インフォーマントとなる言語話者と対面形式で調査・録音を進める必要がある。調査の手配を行うために、内蒙古大学蒙古語文研究所の複数の研究員を研究協力者と協力して調査・研究を進める。

③音声データベースの構築と公開

音声データベースは、発音記号表記、意味（漢語、英語、日本語等）、音声データを登録して、これらのデータを連携させ、インターネットで「誰でも、いつでも、どこからでも」利用できるデータベースサーバーを構築し、公開する。本研究は、モンゴル系諸言語の史的変化の研究をめざしていることから、モンゴル系諸言語のデータを「モンゴル文語形」をキーとして連携させ、検索と比較対照ができるようにする。

（２）音声データベースを利用したモンゴル系諸言語の音声変化の研究

モンゴル系諸言語の史的変化の研究は、モンゴル系のそれぞれの言語が共通の起源からどのような変化を経て現在の言語状態を取るに至ったか、歴史的に生じた言語変化の過程を解明することである。言語変化は、言語のすべての分野に関係するが、本研究課題では特に「音声データベース」の構築と関連して、主に各言語における音声面での変化を研究する。具体的には、「音声データベース」を構築する作業の中で、各言語における個々の音声の変化とともに、発音記号表記には表れにくいアクセント、イントネーション、音節構造等の情報に注目して研究を進める。

４．研究成果

（１）モンゴル系諸言語の基礎語彙調査リストの作成、基礎語彙の音声データ蒐集

モンゴル系諸言語の基礎語彙の音声データを蒐集するために、基礎語彙調査リストを作成した。

リストは、諸言語に共通の基本語彙リストと、それを各言語に適用した個別の基本語彙調査リ

ストの２種類からなる。諸言語に共通の語彙リストは、栗林（1989）と同じ方法によりつつ、通し番号、モンゴル文語形（モンゴル文字）、モンゴル文語形のローマ字転写、漢語・英語・日本語訳（意味）を含み、全806項目から成る。モンゴル文語形とそのローマ字転写形は『蒙漢詞典 増訂本』（1999）に合わせ、全項目に付した通し番号は各項目のキーとして利用することができる。リストは「《中国少数民族語言簡誌叢書》「詞彙附録」モンゴル系諸言語基本語彙リスト」として右のサイトに公開した http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/guide/p05/basic_vacab_list.pdf

各言語の個別の基本語彙調査リストは、ダグル語、東部ユグル語、土族語、保安語、東郷語の５言語についてそれぞれ作成した。調査リストとしては、最小限、共通の語彙リストに基づく通し番号と漢語訳語で足りるものであるが、調査者がモンゴル人であることを想定してモンゴル文語形（モンゴル文字）を付し、《中国少数民族語言簡誌叢書》「詞彙附録」に対応する項目がある場合、その音声記号表記を加えた。

研究期間中に、内蒙古大学および中央民族大学の研究者の協力により、これらの基本語彙調査リストにもとづいた音声データの録音・蒐集を依頼し、研究期間内にはダグル語（ブトハ方言、ハイラル方言）、東部ユグル語、土族語の音声データを得ることができた。

（２）モンゴル系諸言語の基礎語彙音声データベースの構築、公開

録音・蒐集した個別言語の音声データは、単語ごとに切り分け、調査リストの通し番号によってファイル名を付して保存した。

各言語の音声データは、録音・蒐集を行った研究者と協力して、発音記号で表記する作業を行った。発音記号表記に際しては、《中国少数民族語言簡誌叢書》「詞彙附録」を参照したが、表記の違いが少なくなく、全体にわたって発音表記の精密度や音声の解釈を再検討することとなった。

音声データ、発音記号表記、意味（漢語）とモンゴル文語形のローマ字転写、通し番号からなる５つのカラムを１項目のデータとするデータベースを構築し、公開した。このようにして、「ダグル語ブトハ方言」「ダグル語ハイラル方言」「東部ユグル語」「標準音」のデータを公開した：
http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/p05/kdic/list?groupId=40
他の言語の音声データベースもデータの点検を進めており、同様な形で追加していく予定である。

（３）モンゴル系諸言語の史的変化に関する研究

本研究の音声データベースの特徴は、モンゴル語と共通の起源をもつモンゴル系諸言語の基本語彙を、共通の起源に近いと推測される「モンゴル文語形」をキーにして連携させていることである。モンゴル文語形のローマ字転写に関連付けて、それぞれの言語の語形を検索し、結果を表示することができるのは、モンゴル系諸言語の同系語を比較対照することが容易となり、それぞれの言語に生じた語形の変化から、音変化を研究することが大きな便宜となっている。

ダグル語と東部ユグル語のデータベースでは、音声データを収録・整理する過程で、従来の音声表記の問題点を指摘し、音声表記を再検討することができた。

研究分担者である山越はシロンゴル・モンゴル語の、佐藤は保安語に関する研究発表を行い、研究論文を公刊した（「５．主な発表論文等」）。

＜引用文献＞

栗林均「モンゴル系諸言語対照基本語彙 － 中国少数民族語言簡誌叢書の資料による － 」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所『言語文化接触に関する研究』第１号，1989 年，153-383 頁。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 栗林均	４．巻 51
２．論文標題 乙種本「華夷訳語」韃靼館雑字におけるモンゴル文語の特徴	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本モンゴル学会紀要	６．最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro	４．巻 15
２．論文標題 A Basic Vocabulary of Khorchin Mongolian	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Asian African Languages and Linguistics	６．最初と最後の頁 139-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/99900	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山越康裕	４．巻 －
２．論文標題 シロンゴル・モンゴル語条件副動詞の 「言いさし」(insubordination) の発達	５．発行年 2021年
３．雑誌名 津曲敏郎先生古稀記念集	６．最初と最後の頁 125-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤暢治	４．巻 2
２．論文標題 保安語積石山方言の感謝を表す定型表現jiolghejii について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Mongolian Studies	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 KURIBAYASHI, Hitoshi	4．巻 12
2．論文標題 On the development and utilization of Web-dictionary of Mongolian traditional dictionaries	5．発行年 2019年
3．雑誌名 КУЛЬТУРА ЦЕНТРАЛЬНОЙ АЗИИ:письменные источники	6．最初と最後の頁 91-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 栗林 均	4．巻 2019-1
2．論文標題 近代蒙古文辞書的形成歴程－“清文鑑”至《蒙漢字典》	5．発行年 2019年
3．雑誌名 満語研究	6．最初と最後の頁 72-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤 暢治	4．巻 1
2．論文標題 保安語積石山方言の三人称代名詞	5．発行年 2020年
3．雑誌名 MONGOLIAN STUDIES	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro	4．巻 1
2．論文標題 A Suffix or a Clitic? The Negative Marker "_gui" in Buryat	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of the 14th Seoul International Altaistic Conference: Grammars of Altaic Languages	6．最初と最後の頁 93-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計15件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 栗林均
2．発表標題 シラ・ユグル語基本語彙音声データベース
3．学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「モンゴル諸語における言語変容―外的要因と内的要因―」2020年度第2回研究会
4．発表年 2021年

1．発表者名 山越康裕
2．発表標題 モンゴル諸語テキスト資料集成
3．学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「モンゴル諸語における言語変容―外的要因と内的要因―」2020年度第2回研究会
4．発表年 2021年

1．発表者名 山越康裕
2．発表標題 モンゴル語 bol- に対応するハムニガン・モンゴル語の2種類の動詞
3．学会等名 2020年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会
4．発表年 2021年

1．発表者名 山越康裕
2．発表標題 「言いさし」の地域差：モンゴル諸語を俯瞰して
3．学会等名 言語学フェス2021
4．発表年 2021年

１．発表者名 山越康裕
２．発表標題 Excelデータを辞書っぽく
３．学会等名 リンディフォーラム：ウェビナーシリーズ
４．発表年 2021年

１．発表者名 KURIBAYASHI, Hitoshi
２．発表標題 On the "Manchu-Mongolian-Chinese dictionary" from the collection of Toyo Bunko, Japan
３．学会等名 International Conference on Collection and Research of Mongolian Sources in International Libraries
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤 暢治
２．発表標題 保安語積石山方言の「生まれる」と「産む」を表す表現
３．学会等名 日本言語学会第159回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤 暢治
２．発表標題 保安語積石山方言における事態の捉え方
３．学会等名 AA研共同利用・共同研究課題：モンゴル諸語における言語変容―外的要因と内的要因―
４．発表年 2019年

１．発表者名 山越 康裕
２．発表標題 アイヌ語音声資料の文字化テキスト対応づけと公開（第5期）ほか
３．学会等名 IRCプロジェクト（2018年度）成果発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro
２．発表標題 A Suffix or a Clitic? The Negative Marker "_gui" in Buryat
３．学会等名 The 14th Seoul International Altaistic Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 山越 康裕
２．発表標題 モンゴル諸語の動詞屈折体系の記述を再考する：2014年以降の研究の流れを内省して
３．学会等名 札幌学院大学言語学談話会第100回記念会
４．発表年 2019年

１．発表者名 山越 康裕
２．発表標題 スマホを使った言語再活性化の試み
３．学会等名 全所プロジェクト「アジア・アフリカの現代的諸問題の解決に向けた新たな連携研究体制の構築」ポスター展示
４．発表年 2019年

１．発表者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro
２．発表標題 Giving the Data Back to the Buryat Community: a ‘Story-telling’ Picture Book with a Smartphone App for Audio Playback
３．学会等名 International Symposium "Endangered languages in Northern Asia"（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kuribayashi, Hitoshi
２．発表標題 On "chagan tologai", or the syllabary of the traditional Mongolian letters
３．学会等名 The Third International Conference on Mongolic Linguistics（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yamakoshi, Yasuhiro
２．発表標題 Influence of Chinese on Buryat in China
３．学会等名 The 1st International Workshop on Contact Languages: The East Asia-Indian Ocean Connection（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計4件

１．著者名 栗林均	４．発行年 2019年
２．出版社 松香堂書店	５．総ページ数 352
３．書名 華夷訳語（甲種本）の研究	

1．著者名 山越康裕・さねすえ	4．発行年 2020年
2．出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5．総ページ数 36
3．書名 白鳥と狩人：ブリヤートの民話	

1．著者名 佐藤暢治	4．発行年 2019年
2．出版社 広島大学	5．総ページ数 13
3．書名 保安語民話資料 保安族民間故事1	

1．著者名 佐藤暢治	4．発行年 2019年
2．出版社 広島大学	5．総ページ数 180
3．書名 保安語積石山方言語彙集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ダグル語、東部ユグル語基礎語彙音声データベース
http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/p05/kdic/list?groupId=40
モンゴル諸語対象基本語彙データベース
https://mongolicbv.aa-ken.jp/bv/index.html
モンゴル諸語対照基本語彙データベース
https://mongolicbv.aa-ken.jp/index.htm
モンゴル語および関連諸言語用ソフトキーボード
https://mongolicbv.aa-ken.jp/list_of_webkeyboard.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山越　康裕 (Yamakoshi Yasuhiro) (70453248)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	
研究分担者	佐藤　暢治 (Sato Nobuharu) (90263657)	広島大学・国際協力研究科・教授 (15401)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関